ストラヴィンスキー

春の祭典

Le sacre du printemps

作曲者自身による1台4手連弾版

作品への透徹した眼差しが生み出した
鮮烈なピアニズムの世界

青柳いづみこ ＋ 高橋悠治

11月21日（土） 代官山教会

東京都渋谷区代官山町 14-3
東急東横線 代官山駅 より
徒歩約５分

開演 14:00～（開場13:30）

チケット：全席自由
5,000 円

◀▼ご予約はこちらから
https://www.secure-cloud.jp/sf/1602044847HSRCqejJ

青柳いづみこ（朗読、ピアノ） **高橋悠治**（ピアノ）

ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲
（編曲：高橋悠治）

ストラヴィンスキー：春の祭典

井伏鱒二、太宰治、青柳瑞穂ら文士の作品を朗読
フローベルガー、ジェズアルドらのバロックとショパンの演奏

お問い合わせ s-concert@ottava.jp　主催：OTTAVA 株式会社 https://ottava.jp

この公演は、令和2年6月11日にクラシック音楽公演運営推進協議会が策定したガイドラインに基づいて運営されています。会場で検温・消毒等を求める場合がありますのでご了承ください。ご来場の際はマスクをご着用ください。

青柳いづみこ（あおやぎ）　ピアニスト・文筆家

安川加壽子、ピエール・バルビゼの両氏に師事。マルセイユ音楽院首席卒業、東京藝術大学大学院博士課程修了。平成元年度文化庁芸術祭賞。執筆と演奏を両立させ、著作は 30 冊、CD は 18 枚を数える。15 枚の CD が「レコード芸術」誌で特選盤に選ばれる他、「翼の生えた指」で吉田秀和賞、「青柳瑞穂の生涯」で日本エッセイストクラブ賞、「6 本指のゴルトベルク」で講談社エッセイ賞、CD「ロマンティック・ドビュッシー」でミュージック・ペンクラブ音楽賞。「ラ・フォルジュルネ音楽祭」、NHK「ららららクラシック」などにも出演。2014 年～18 年、ドビュッシー没後 100 年へのカウントダウンコンサート、2020 年には演奏活動 40 周年コンサートを開催。10 月に「阿佐ヶ谷アタリデ大ザケノンダ」(平凡社)、11 月に 2台 6 手による CD「海」(ottava records) を刊行予定。高橋悠治との CD に「春の祭典・ペトルーシュカ」「6 人組誕生！」などがある。日本演奏連盟理事、日本ショパン協会理事、大阪音楽大学名誉教授。

高橋悠治（たかはしゆうじ）　作曲家・ピアニスト

柴田南雄、小倉朗、ヤニス・クセナキスに学ぶ。1960 年代はクセナキス、ジョン・ケージなどの現代音楽のピアニストとして活躍。70 年代は日本の前衛音楽誌「トランソニック」の編集、78 年～85 年、アジアの抵抗歌を独自のアレンジで演奏する「水牛楽団」に参加。76 年から現在まで、画家・富岡妙子とスライドと音楽のための物語作品の製作。90 年～2007 年、高田和子のために伝統楽器と声のさめの作品を作る。現在は、ピアノとクラシックでフリー・ミュージックを演奏し、作曲し、執筆している。
著書に「高橋悠治・コレクション 1970 年代」「音の静寂 静寂の音」（平凡社）、「きっかけの音楽」（みすず書房）などがある。

発売元：アールレゾナンス株式会社
販売元：キングインターナショナル株式会社
商品番号：RRSC-20003, SACD Hybrid,
オープン価格

青柳いづみこ＆高橋悠治（ピアノ連弾）

セッション録音：2017 年 6 月 27、28、29 日 / 五反田文化センター 音楽ホール
ライナーノート：青柳いづみこ、高橋悠治、池原舞 (すべて書き下ろし)

ストラヴィンスキー
バレエ音楽「春の祭典」
バレエ音楽「ペトルーシュカ」，3 つのやさしい小品

フランス音楽のスペシャリスト、また研究者、著述家として常に新たなテーマに挑戦しつづける青柳いづみこ、作曲家、ピアニストとして今日の音楽を牽引してきた高橋悠治。鮮やかなコントラストを描く 2 人の稀有な個性が反応し合い、ストラヴインスキー音楽の本質を抉る録音が完成しました。
「春の祭典」の複雑なテクスチャーが透けて見えるような変拍子の冴え、抜群のリズム感覚、強靭なドライブ感。人間になれなかった「ペトルーシュカ」の悲しみの向こうに漂う儚い抒情。作品への透徹した眼差しが生み出した鮮烈なピアニズムは、圧倒的な説得力をもって聴くものに迫ります。
驚くほどの集中力を発揮する 2 人のピアニストが到達した異次元の高み、その張り詰めた空気感を余すところなくとらえたのは数々の名録音で知られる名匠・深田晃氏。音の鮮度とクオリティーの高さを充分に発揮させるために、SACD ハイブリッドでのリリースとなりました。
ライナーノートは青柳いづみこ、高橋悠治による特別寄稿に加え、新進気鋭のストラヴィンスキー研究家、池原舞氏 (音楽学者) の書き下ろし楽曲解説を掲載。読み物としても充実した内容となっています。